

えいていけん

応援します! 《極地研》

【連載】国立極地研究所

昭和基地から

「おめでとう!」

1

立川と語ろう 立川に生きよう

January 2010

écoutez bien Vol.28 No.302



表紙の人 / 高橋重雄 (柴崎町)

写真 / 細江英公

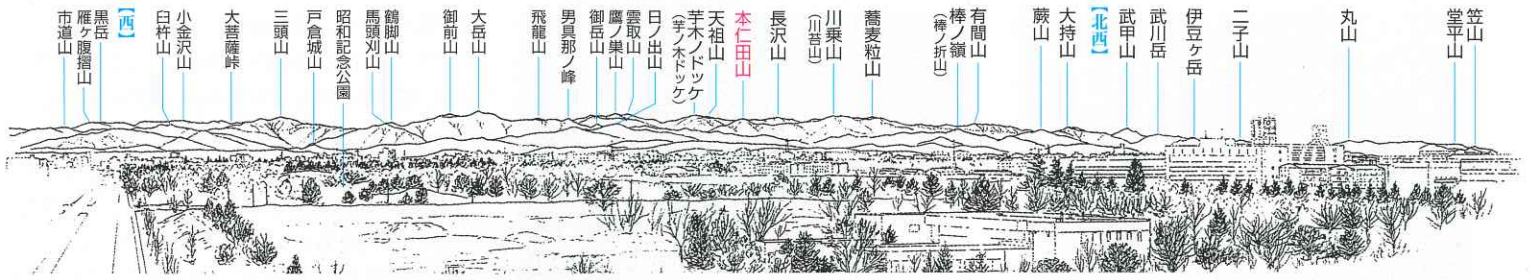
続々・立川から見える山 ⑥

本仁田山

(ほにたやま)

1,225m

案内人：守屋龍男
山岳展望図：藤本一美



多摩モノレール 立川北-高松間より

奥多摩駅裏に聳える名山

〔本仁田山へのコース〕

鳩ノ巣駅まで電車や車で約1時間。鳩ノ巣駅→50分→大根ノ山ノ神(峠)→杉ノ殿尾根→1時間20分→瘤高山→30分→本仁田山→1時間→安寺沢→40分→奥多摩駅(歩行時間 約4時間20分)。

〔別のコース〕

鳩ノ巣駅→2分→花折戸尾根→2時間→チクマ山→1時間→本仁田山→杉ノ殿尾根もしくは大休場尾根を下る。



本仁田山は、JR青梅線終点の奥多摩駅の北方に大きな山容で聳える山で、地元では人気のある山だ。立川からは御岳山や日の出山の右に丸い山頂の本仁田山が垣間見える。登山コースは3、4本あるが、どれも取り付いてから3時間ほどで山頂に立つことができる。

小雪が無い落ちる1月下旬に鳩ノ巣駅からのコースを登った。10軒ほどの民家が軒を寄せ合う集落の間の急な道を登り、大根ノ山ノ神から杉ノ殿尾根を登る。名の通りスギが多い尾根でスギ花粉も飛び始めていた。スギ植林地を抜けミズナラなどが多く茂っている自然林に出ると、雪がかなり多くなった。

ここから、見上げると首がいたくなるほどの急斜面を一気に登りコブタカ(瘤高)山にたどり着く。川乗山が雄大に見える所であるが本日は雪空で視界ゼロである。その先、雪が20センチほど積もっている尾根道を本仁田山頂を目指して黙々と歩く。平石山分岐を過ぎると緩やかな山道になる。雪が積もって見えないがイノシシのぬた場が点在している場所だ。山名はこのぬた場がもとになったと言われている。すぐ先の山頂にようやく到着。

東側一帯の樹木が切り払われ展望が開けている。今回は雪空で駄目だったが、条件がいいときは都心の超高層ビルや筑波山などが見える。富士山も反対側の西側にカラマツの樹木越しに見える。昼食後、天候の回復を期待して、しばらく待機していたが、残念ながら山霧が消えず、下山することにした。

下山は急坂で有名な大休場尾根を木々につかまりながら、慎重に下った。長い急坂の下りで、膝が悲鳴を上げ始めた頃、やっと安寺沢集落に着いた。ここから車道を40分ほど歩くと奥多摩駅だ。



14年ぶりの海外遠征—未来へ繋ぐ若い力

立川女子高校教諭 山岳部顧問 桃井尚史さんに聞く

写真提供：立川女子高校



▲第八次海外遠征隊（写真左から）立川女子高校OG 福島和子さん 浦野佳代子さん 桃井尚史先生（中央）立川女子高校校長 高橋清輝先生（写真右から）平成16年卒業OG 坂本優さん 平成16年卒業OG 関沙織さん 平成15年卒業OG 中島由香里さん 平成20年卒業OG 横溝朋美さん サポート隊員 櫻井郁男さん

■立川女子高校山岳部

立川女子高校は大正14年（1925年）に創立、来春85周年を迎える。山岳部は1959年に発足し50年の歴史ある部活動。現在の校長である高橋清輝先生が顧問になってからは、《より高く より困難への挑戦》を目標に、高校生として日本初の海外登山を実施。

過去の実績：台湾ユイシャン登頂、大韓民国 雪岳山登頂、ネパールヒマラヤ ゴーギョピーク登頂、カナダ ロッキーツインズ北峰登頂、ネパールヒマラヤ チュルー南東峰登頂、アメリカ合衆国 アラスカ サンフォード遠征、中国 コンゴールIV峰登頂。1995年の遠征以降諸事情からしばらく海外遠征がなかったが、2009年8月に山岳部OG達による第八次海外遠征登山 ネパール ヒマラヤ ダンプス ピーク登頂を果たした。



■桃井尚史（ももい たかし）

1957年生まれ。埼玉大学数学科卒業。新卒で立川女子高校教諭となり、勤続30年。根っからの鉄道ファン。鉄道ファンらしく写真も趣味の域を超える腕前。サイクリングや山歩きが趣味で、立川女子高校山岳部としての活動は教諭となって2年目から。海外遠征はカナダ遠征から皆勤で参加し、写真撮影を担当している。

■桃井先生の登山歴は？

（桃井）立川女子高校に勤めてからです。立川女子高校山岳部はすでに有名な山岳部になっていて始めた時はどうなることかと思いましたが、鉄道が趣味でしたから平気で10kmとか歩きますし、自然が好きでしたし、なんとかまりました。下りはちょっときつかったですね。当時の部員は足が速かった。走るように下りてちゃって、ついていくのが大変でした。

■ 今回の海外遠征は、隊長である高橋先生が心臓の手術をなさってまだ2年。お医者さんから高度5000mを超えないという条件で許可された登山でした。高橋先生が5600mで下山されてからの登攀指揮を、桃井副隊長がとれたことに満足していると高橋先生はおっしゃっていました。

（桃井）うれしかったんでしょう。海外遠征のない14年間、部活を支え後輩を指導してきてくれた当時の部員たち。今はOGになっているわけですが、彼女たちに夢だった海外遠征を経験させてあげたいというのが、先生の願いでしたからね。高橋先生自身も本当は登りたかったのだと思います。直下まではいきました。手術はしましたが、元気ですから。50代の頃も60代になってからも、バリバリ登ってます。この後もまだまだ登るでしょう。私はその下でできる範囲でお手伝いさせていただきます。

■ 今、女性の登山がブームになっています。富士登山などとても人気があるようです。こちらの山岳部にも新入部員が入ったようですね。初

心者でも山に行くのですか？

（桃井）行きます。行くと思います。OGたちが来て面倒みてくれるでしょう。うちの山岳部は、高橋先生が育てて強くしてきた全国でも有名な山岳部です。OGの中には名キャプテンと言われた人や、現在も現役で登っている人などすごい人たちがたくさんいますから。私も高橋先生から教えてもらったのでそれしか知らないのですが、山と言ったらみんなで登るものという考えです。パーティーのうち1人登頂すれば成功なのだそうですが、高橋先生の登り方は全員で登る。高校という性格上そうなるのかもしれませんが、そう言いきってそのようにするからすごいと思います。チームワークって言ったって、高校生ですから。そこは大変です。でもそれを最後には全員が頂上を目指して1つになっていく。すごいと思います。

■ 高橋先生の精神論がすばらしいと聞いていますが。

（桃井）中には「高橋先生には技術論がないから」などと言う人がいるんです。もちろん山に



登るためのイロハはきちんと教えています。でも、何にも知らない女の子を、入学して3年間で6500mを登るような部員に育ててしまうんですよ。高橋校長がその精神力を培ってしまっただけです。絶対に途中でめげないような。そんなこと技術論じゃできないと思います。

■ 高橋先生が以前、クレバスに落ちたことがあるときいたのですが。

（桃井）あの時はもう死んだと思いましたね。ここのクレバスはギシギシ動いて、遺体が出るのは150万年後だって聞いていたので、150万年も待たられないよな～、もう会えなくなってしまいましたね。ところが声が聞こえてきたんですよ、高橋先生の声。それからもう大変。ザイルを落として、穴が広がらないようにヘルメットを噛まして、高橋先生はどうしたらいいかわかっていますので、みんなで高橋先生の指示で引っぱりあげたんです。上がってきた時はもう涙が出そうでした。でも、高橋先生は動かない。落ち着いてましたね～。これから気をつけようって歩き出したんですよ。何が起き

ても動かない先生の姿を目の当たりにしちゃうと、びっくりしちゃうし、尊敬しますね～。

■ 命がけなんですね。桃井先生も、顧問という立場でいかがですか？

（桃井）高橋先生のようにやれるかっていうと、それは謎です（笑）。でも命がけは命がけです。最後は死ぬ覚悟で行ってますから。死んでもいいやではなくて、生徒がそういう目に遭うなら自分が死のうってという覚悟です。みんなが生きて帰るために自分も頑張りますけど。どうしても護らなきゃいけない命のためには覚悟します。普段はそんなこと言えないし、言いたくないが、やっぱり身辺整理とかしますから。

■ 遺言書いちゃったりするんですか？

（桃井）書きませ～ん。僕の場合は、あの電車乗ってないから乗っておこ～つとか（笑）。



復活！立川女子高校山岳部

昭和基地から「おめでとう!」

南極大陸の不思議

2010年の幕開けは、南極・昭和基地からの美しい景色をお届けしよう。
昭和基地では越冬隊が年を越し、
11月に成田を出発した第51次南極地域観測隊は、新年を砕氷船しらせ船上で迎える。
国立極地研究所を迎えて7ヶ月。立川で、南極の元旦を共有したい。

案内人 **武田康男** 昭和基地 第50次南極観測隊

プロフィール

東北大学卒業。高校教諭として26年間教鞭をとる。千葉県立東葛飾高校教諭から国立極地研究所へ、第50次南極地域観測隊隊員に。「気水圏変動のモニタリング研究観測」を担当。

写真提供: 国立極地研究所
撮影・写真コメント 武田康男



[転がる太陽]

2009.5.26.

太陽が出ている時間が2〜3時間となってきました。日の出後に太陽は左へ、地平線を這うように動き、そのまま沈んでいきました。このできごとを南極では「転がる太陽」と呼んでいます。同じ場所から25分ごとに自動撮影した写真を7枚重ね合わせました。



[カタバ風]

2009.2.20.

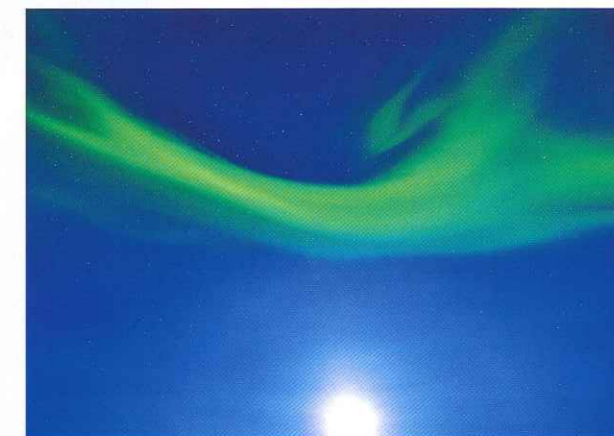
南極大陸斜面を滑り落ちるような流れが見られました。南極特有のカタバ風です。ビデオを早回しすると流れ下る川のように。冷たく重い空気が、雪を巻き上げて、重力によって降りてくるのです。半日後、昭和基地にもこの風がやってきました。地響きのような風の音がします。



[ライトピラー]

2009.7.19.

幻想的なライトピラーが見えました。外灯の光が雪に反射してできたものです。気温が-15°C程度で、平たく大きな雪の結晶が降っていて、風が弱いという条件が必要だと思いましたが、まさにその通りの状況でした。すべての光は天頂で一点に集まりました。南極で絶対に見たいものの1つでした。



[月夜の頭上のオーロラ]

2009.5.13.

月が出ている明るい夜は、オーロラは見えにくいですが、しかしオーロラが明るければ、月夜は青い空とともに美しい光景となります。超広角レンズで頭上を撮ったこの写真は、雪原に寝転がって見た様子に近いです。オーロラはゆっくりと形を変えていきました。

[元旦の光芒]

2009.1.1.

2009年は南半球の海の上で迎えました。元旦に美しい光芒が見られました。雲のすき間から漏れた太陽光線がもやに当たり、縞模様となって輝いていました。

■石田郷子 俳人。1958年東京生まれ。おもに武蔵野をフィールドに作句。句集に「秋の顔」木の名前。俳句雑誌「桜」代表。俳人協会・日本文藝家協会会員。

春の七草

まだ小さい子どものあるような家庭は別として、案外正月休みというのも無為に過ごすもの。毎年の寝正月にも飽きている私たちは、いつそのことまだ松も取れないうちに、ひと句会しようかと集まることになる。

JR矢川駅に降り立てば、冬も極まった空は冴え冴えとして美しい。白息を上げながら、新年の挨拶を交わす。年の頃もまぢまぢの不思議な集団は、矢川緑地に向かって、畑の間の道をぞろぞろと歩き出す。

まだ日陰になっっている畑には一面に霜が降りていて、眺めていると背中がぞくぞくしてくるほどだが、日の当たり始めた畑の黒土からはまるでお日様に応えるようにさかんに湯気が上がり出している。日当たりのいい畑の隅などにはもう雑草たちが花をつけている。ぱつぱつと開いた冬の青空のような花は、オオイヌフグリだ。清々しい白い十字の花は、タネツケバナナナズナだろう。

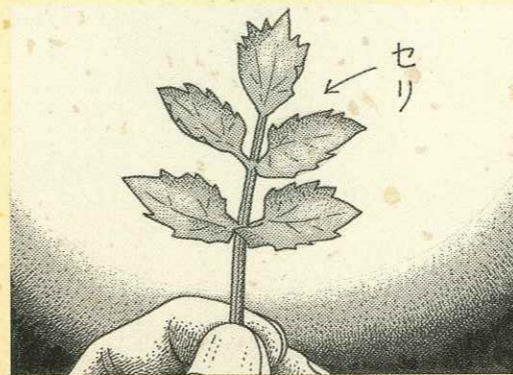


イラスト:小林木造

「はいっ」と何人かが応える。春の七草は「せりなづなのおぎょう(ごぎょう)はこべらほとけのざすずなすしろこれぞななくさ」という古歌があつて覚えやすい。芹(せり)は雑煮に入れる三つ葉がよく知られているが、もともと水辺に自生する野性の植物。「なづな」は漢字だと「齋」と、見たこともない字を書くが、要するに「おぎょう」は漢字では「御形」

(五形)、「母子草のこと。「はこべら」は「はこべ」の古名。漢字ではやはり見たこともない「繁縷」。小鳥の餌にもなる雑草だが、ナデシコ科で、小さい白い花がよくよく見れば整った美しさがある。日の当たるところでは冬の間もよく茂っている。「すずな」と「すずしろ」は、蕪と大根のことで、それぞれ「菘(鈴菜)」「蘿蔔(清白)」と書く。これもまた難しい字だなあ。さて「ほとけのざ」だが、ふつうはシソ科で赤紫色の花の咲く野草をいう。ところが、春の七草の「仏の座」はまったく別の植物なのだ。「コオニタビラコ」として図鑑に出てくる植物が、実は仏の座だ。ロゼット(根生葉)状になって冬をしのぎ、春に茎を伸ばして黄色い花をつけるが、このロゼット状の葉を仏様の蓮座に見立てたのだろう。

ちなみに矢川緑地付近でも、畑の蕪と大根を入れれば、五草くらいはすぐ見つける。川島 葵

街の話題

多摩の今は「多摩てばこネット」で

えくてびあんが運営するWebサイト「多摩てばこネット」。ここには多摩の「今」が満載です。「立川ニュース」では大きなイベントから小さな展示会までを紹介。たちかわMAPには550件の注目ポイントが詰まっています。中でも「とっておきのお店」情報は、多摩てばこスタッフが現地足を何度か歩いて紹介。多摩てばこスタッフが現地足を何度か歩いて紹介。多摩てばこスタッフが現地足を何度か歩いて紹介。

じっくり読んでほしいページは「たちかわperson」と「まちの達人」です。開けば温かい心になれる玉手箱。だから一度は見たい「多摩てばこネット」を、どうぞよろしく! http://www.tamatebakonet.jp/



第51次南極地域観測隊、出発!



国立極地研究所が立川に移転してきて初めての観測隊。11月24日、第51次南極地域観測隊本隊が南極に向けて出発した。家族や見送りの人々に挨拶をした本吉隊長によれば、今観測隊は同行者を含め85名という過去最大の規模となり、すでに先行して南極に到着し任務に就いている隊員もいるという。夏隊は来年3月19日に、越冬隊は再来年3月19日に帰国の予定。

極地研究所の藤井所長は「訓練を乗り越えてこの日を迎えた。成果をあげてきてほしい」と挨拶し、さらに「見送りや家族を代表してお願いというか、これは命令です。元気に、にこやかに帰国すること」と言い足した。

夏隊は短いとはいえ4ヶ月、越冬はさらに1年、会えなくなる家族との別れに涙があちこちで見られた。体に気をつけて頑張ってきて欲しい。一方ですでに第52次隊の隊員公募は始まっている。詳しくは国立極地研究所HPで。 http://www.nipr.ac.jp/jare/

この人この店 (78) 魚の通 大久保 貴史さん



今回は、お正月らしくみごとなお刺身(大漁盛り)といきましょう。切り身の厚さや新鮮さが自慢です。「魚の通(みち)」と言うだけあって、種類も豊富。壁には「(メニューは)書くのがめんどうな程いろいろあります」と貼ってあります。いつもは厨房に立って腕を振っている店長 大久保貴史さん。「肉の料理もありますが、うちはやっぱり魚を食べたいですね」とおっしゃいます。ランチメニューにカレーとありますが「まかないで出していたんですけれど、評判よくランチに出しています」。そのランチ、定番の海鮮丼はお得です。こちら大きな切り身が盛りだくさん。ご飯を大盛りにしてもらってもお値段が変わらず800円。この時期は鍋もいい! 具材がドサドサ入った(海鮮鍋)や毛ガニがどーんと鍋からはみ出している(鮭と毛ガニの北海鍋)など、みんなでワイワイ食べたら楽しそう。



〒190-0012 立川市曙町2-8-5 シネマシティビルB1F ●TEL 042-526-8965 ●営業時間 ランチ/11:30~14:00 ディナー/17:00~23:30 ●年中無休 ▶多摩てばこネット(お店のコーナー)にも掲載中。

えくてびあんの輪

えくてびあんのリストのお店にいつもあります。今月は 富士見町・緑町・泉町・西砂町・一番町 のお店です。

- 富士見町 有料老人ホーム サンピナス立川 527-8866
Café Cuisson 090-6935-1227
有限会社 白洋舎 522-5952
波多野米店 522-2884
立川市社会福祉協議会市民活動センターたちかわ 529-8323
桜井電材株式会社 523-5281
立川市歴史民俗資料館 525-0860
乙黒東洋整骨院 523-1859
室内装飾専門店 株式会社アイアイ 522-5972
多摩信用金庫 富士見町支店 528-1741
酒 ESPOA おぎの 522-4500
株式会社立川印刷所 524-3268
手打ちもとおか 528-2345
フラワーショップ コミ 525-5198
松栄寿司 524-6958
緑町 陸上自衛隊立川駐屯地 524-9321
独立行政法人 国立国語研究所 540-4300
国立極地研究所 512-0652
こもれびの里 569-6277
花みどり文化センター 528-1751
昭和天皇記念館 540-0429
泉町 ハウジングワールド立川 527-1321
東京消防庁立川消防署 526-0119
西砂町 パティスリー プルミエール 531-4835
一番町 有限会社東京きのこ社 531-5625
パン工房 ゼルコバ 560-4544
CHINESE DINER 陶桃 531-3100
フレッシュグリーン 八百賢 531-5164

jorakugajo

真如苑提供番組<常楽我浄>

スカパーフェクトTV 216ch
マイテレビ アナログ 11ch
デジタル 111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

立川・多摩の話題いっぱい!

わたしとあなたとたちかわを結ぶ街ナビネット
多摩てばこnet

Tamatebakonet
www.tamatebakonet.jp/

立川市柴崎町2-1-10
高島ビル4F
TEL/042-528-0082



かたこと

明けましておめでとうございます。平成22(2010)年最初の「えくてびあん」1月号をお届けいたします。季節の節目や年中行事があまり意識されなくなったといっても、お正月はどこか厳粛に改まったものがあります。お正月といえば初詣。冴えわたった朝の気のなかに出ると自然と身も心も引き締まります。表紙にご登場いただいた高橋重雄官司の諏訪神社は、夜明け前から多くの参拝者が訪れます。美しい日本の伝統といえましょう。日本のお正月は冬の寒さの中ですが、地球

の裏側、南半球も一番南の南極は夏。年間企画「立川の世界一!」国立極地研究所からは、昭和基地で年を越した第50次観測隊、武田康男さんの案内で、南極の元旦を誌上で共有いたしました。11月に旅立った第51次観測隊の皆さんはどんなお正月を迎えているのでしょうか。ご活躍を祈ります。今年は干支でいうと庚寅(かのえとら)。トラは一日に千里を走り、また戻るといいます。えくてびあんと「騎虎の勢い」とまでいなくても、皆さまにさらにご愛読いただければ、気持ちも新たに踏み出してまいります。

えくてびあん (c) 1月号 第28巻 通巻302号 平成22年1月1日発行

発行 有限会社 えくてびあん
〒190-0023 東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL. 042-528-0082 FAX. 042-528-0065
URL www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須環 / 編集人 芳賀敏博

編集スタッフ 大久保清志/清水恵美子/中瀬子
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMMNET design factory
五来孝平/中村 伸
写真 スタイリスト 小川町子
印刷 株式会社 大廣社

無断転載を禁じます。

表紙の人

高橋重雄さん(柴崎町)

市民にとっては<おすわさま>と親しみを込めて呼んだ方がしっくりくる諏訪神社。弘仁2(811)年に信州・諏訪大社を勧請したと伝えられる古社だ。江戸・寛文年間に建てられ市内最古の建造物だった旧社殿が平成6年に焼失。その悲劇を乗り越えて平成13年に見事に再建された立川総鎮守の若き官司である。間もなく創建1200年を迎える伝統を受け継ぎ、多くの崇敬を集める神社の新たな歴史を担う。

諏訪神社で 写真:細江英公



立川でピクニック

子供の頃からずっと、大好きなミュージカル映画。今年から改めて歌を習い始めたのも、この映画との出会いがあったから。

青い空、どこまでも続く草原。高原でのピクニックシーン。大きなお屋敷で厳格な父のもと、自由に遊べない7人の子供達。家庭教師マリアは、カーテンで子供達の遊び服を作り、バスケットを持って、高原へ子供達とでかける。バスケットからは、果物やレモネードと一緒に出てくるのが、この映画の舞台となったオーストリア発祥のパン「クグロフ」。山

映画 『The Sound of Music』

(サウンド・オブ・ミュージック)

型で真ん中が空洞のクグロフは、フランス王妃マリー・アントワネットの好物でもあったとか。大自然の中でパンを囲みながら、「ドレミの歌」が生まれる。

立川にも大きな「原っぱ」がある。たまには仕事ではなく、ピクニックしに公園へ行き、パンを食べながら、青空のもと歌いたい。

国営昭和記念公園 こもれびの里事務局
栗林 彩乃

今回は栗林彩乃さんご紹介の中瀬美紀子さんです。

今月のパン

ヴァイツェンブロート 立川市錦町 1-6-19 TEL 042-527-2176 営業時間 9時～19時30分

撮影場所：昭和記念公園 みどりの文化ゾーン

昭和記念公園の新しい玄関口「みどりの文化ゾーン」。入園は無料で散歩する人、憩う人。家族で楽しく遊ぶ姿も見られます。平日の昼にはお弁当を広げる人もたくさんいて、都会のオアシスになっています。